

知っちよる?

しものせき

下関市立大学編

このページは、ジュニアのページ(J'sページ)として市内5大学と連携して作成しています。小・中学生、高校生に向けて、毎月、大学のユニークな取り組みや役立つ情報を分かりやすく紹介するコーナーです。記事は、月ごとに各大学が持ち回りで担当しています。

今月の担当は下関市立大学です。

銀行を通して地域をみる

まず、銀行がどこにあるのかを確認しました。図1と図2は2005年と2015年の下関市内の店舗数の多い銀行山口銀行、西京

銀行はどいこある?

みんな、知っちよる? 今回は、下関市立大学経済学部の地域研究グループが、「銀行を通して地域をみる」ことをテーマにして行なった研究を紹介します。

私たちの身の周りの店と地域

私たちの周りにはさまざまな店があります。また、それが新しくできたり、なくなったりもしますよね。どのような場所でもそのようなことが起きているのでしょうか? それはなぜでしょうか? 便利になつたり不便になつたりしないでしょうか? このような関心の元私たちは銀行を通して下関の状況を見ることにしました。

そこで、もっと細かく店が減つた場所の特徴をみることにしました。傾向としては、人口減少と高齢化が進む地域が多かったのですが、それだけではなく、お互いの店が近過ぎた、大きな道路から離れていて店の場所が分かりにくいという場合もありましたそのため大きな道路沿いに店を移動させた。

それはどのような場所?

銀行、西中国信用金庫と郵便局の場所を示した地図です。2015年には132店ありました。下関市の南(旧下関市)と北(旧4町)で大きな偏りがあり、特に南側の市中部(下関駅から唐戸の周辺)に多くの店が集まっています。また、郵便局が全体的に幅広くいろいろな場所にあることも分かります。10年間で店がなくなった場所を確認してみると、旧下関市で7店、旧4町で4店でした。

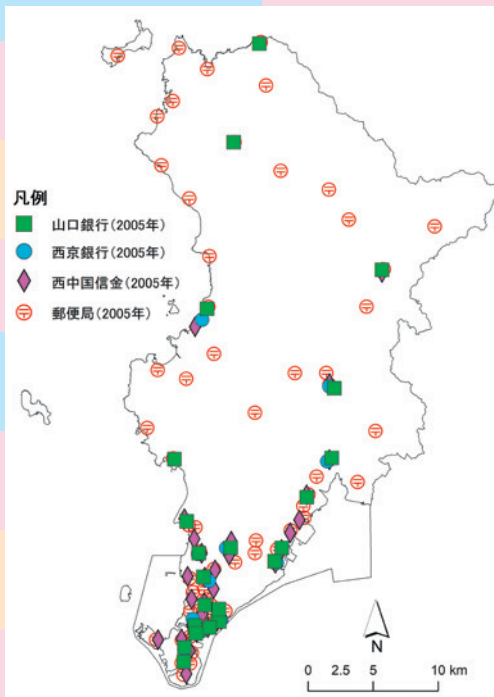
今後は、銀行と郵便局が協力したり、ATMをどこに置くかを考えたり、スマートフォンでの支払いに対応して店の使い方を見直したりなど、便利さと費用のバランスをとりながら、さらなる工夫をしていくと見られます。それにあわせて、私たちがみている街並みや生活も変わっていくのかもしれないですね。

不便にならないための工夫

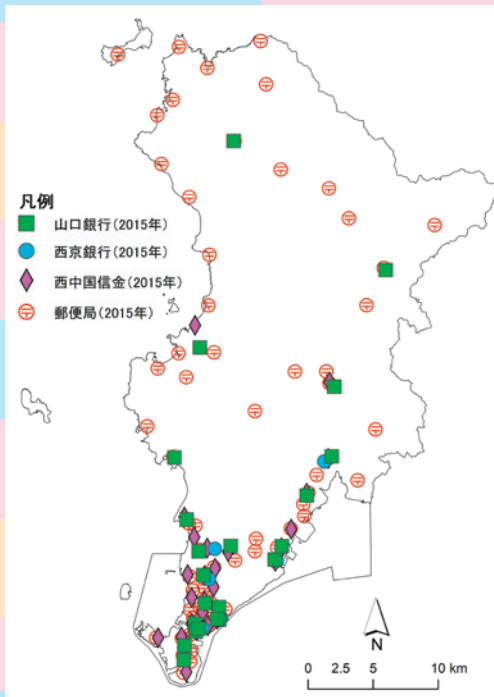
では、これによって不便になつてしまったのでしょうか。銀行の方のお話によると不便にならないようにさまざまな工夫をしているようです。例えば、広い駐車場を作って遠くからでも車で来やすいようにするとか、銀行はATMの利用でコンビニと協力しているのので、店を作つたりなくしたりする際にはコンビニの場所を確認するなどしています。



「地域共創研究報告会で高校生や市民に対して研究内容を発表した様子」



「図1 市内の銀行の場所を示した地図(2005年)」



「図2 市内の銀行の場所を示した地図(2015年)」